

富山高等専門学校		開講年度	令和04年度 (2022年度)	授業科目	英語表現Ⅱ
科目基礎情報					
科目番号	0037		科目区分	一般 / 選択	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	電子情報工学科		対象学年	2	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	ATLAS English Grammar Navigatot in 27 Lessons (テキストには書き込みをしないこと。ノートを必ず用意する)				
担当教員	守田 卓哉				
到達目標					
英語表現Ⅰに引き続き、さらなる英文法の知識を身につけ、英文法力の構築を図り、豊かな英語表現力を身につけることを目標とする。その目標を達成するためには、家庭で授業内容の復習をすることが必須である。					
ループリック					
	理想的な到達レベルの目安(優)		標準的な到達レベルの目安(良)		未到達レベルの目安(不可)
評価項目1 文法構造理解	文法項目にあげられている文法事項に関し、そのシステムを理解し、関連する問題を正確に解答できる		文法項目にあげられている文法事項に関し、そのシステムを理解し、関連する基本問題を正確に解答できる		基礎的な文法構造システムの理解が不十分なため、基礎的問題を正確に解答できない
評価項目2 文法運用能力	既習文法項目に関する知識を用いながら、複合的な問題に関しても正確に解答することが出来る		複合的な問題に関しても、ある程度、正確に解答することが出来る		既習文法項目が定着していないために複合的な問題に関しては対応することが出来ない
評価項目3 授業への取り組み姿勢	積極的に授業参加し教室全体の学習意欲を高め、協調性を持って能力の向上を図っている		協調性を持って能力の向上を図っている		協調性に欠け、授業の進行を妨げたり、他学生の学習を阻害している
学科の到達目標項目との関係					
MCCコア科目 ディプロマポリシー 3					
教育方法等					
概要	全員参加型授業とは、多彩な形式の問題に取り組みながら疑問に関する質問等を積極的に発信することにより自己の英語基礎力を高めることを目標としている。授業を通し、英文法の知識を身につけ英語の表現力を豊かにすることを目標とする。この教科書の目標を達成するためには家庭で授業内容の復習が必須である。教科書に出題されている問題は答えをテキストに書き込まず、何度も問題を解き、パターンを暗記してもあいたい。				
授業の進め方・方法	通年：教師単独による全員参加型授業（質疑応答型）				
注意点	教官の指示に従い、授業中は集中し、問題に取り組むこと。評価が50点に満たない場合は、不認定となる。真面目な学習態度で授業に臨めば評価が50点以上になるような考査が出題されるので、しっかりと授業に取り組んでほしい。基本的に追認試験は行わないが、正当な理由があれば願い出によって追認試験を受けることができる。追認試験の結果、単位の修得が認められた学生はその評価を50点とする。				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	ガイダンス & 文法講座	授業の目標を理解する。「関係詞（1）」に関する文法講座	
		2週	英文法講座	関係詞（2）	
		3週	英文法講座	関係詞（3）	
		4週	英文法講座 & 問題演習	関係詞（4） & テキスト 第17章	
		5週	問題演習	テキスト 第18章、第19章, Plus 関係詞	
		6週	英文法講座	比較（1）	
		7週	英文法講座	比較（2）	
		8週	中間考査	関係詞(1)～Plus関係詞に関する確認テスト：解釈、単語・表現等様々な形式で既習事項が出題される。また、英文法講座での内容も出題される。授業内容重視です。	
	2ndQ	9週	英文法講座	中間考査結果考察後、比較（3）	
		10週	問題演習	テキスト 第20章、第21章, Plus 比較	
		11週	英文法講座	仮定法（1）	
		12週	英文法講座	仮定法（2）	
		13週	英文法講座	仮定法（3）	
		14週	問題演習	テキスト 第22章、第23章	
		15週	Review & 成績評価・確認	期末考査結果考察後、成績評価に関する総評。	
		16週	期末試験	第20章～第23章に関する確認テスト：解釈、単語・表現等様々な形式で既習事項が出題される。また、英文法講座での内容も出題される。	
後期	3rdQ	1週	英文法講座	否定	
		2週	問題演習 + 英文法講座	テキスト 第24章 + 英文法講座 代名詞（1）	
		3週	英文法講座	代名詞（2）	
		4週	問題演習	テキスト 第25章、第26章	
		5週	英文法講座	様々な表現と構文（1）	
		6週	英文法講座	様々な表現と構文（2）	

4thQ	7週	問題演習	テキスト 第26章、第27章
	8週	中間考査	第24章～第27章に関する確認テスト：解釈、単語・表現等様々な形式で既習事項が出題される。また、英文法講座での内容も出題される。
	9週	英文法講座	名詞・冠詞・形容詞・副詞・接続詞・前置詞
	10週	問題演習+英文法講座	テキスト p.76 - p.83 + 英文法講座 疑問文
	11週	問題演習+英文法講座	テキスト p.84 - p.85 + 英文法講座 語法(1)
	12週	英文法講座	テキスト p.80 - p.83 + 英文法講座 語法(2)
	13週	英文法講座	語法(3)
	14週	問題演習	テキスト p.86 - p.88
	15週	期末考査	p.76 - p.88に関する確認テスト：解釈、単語・表現等様々な形式で既習事項が出題される。また、英文法講座での内容も出題される。
16週	Review & 成績評価・確認	期末考査結果考察後、成績評価に関する総評。	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
基礎的能力	人文・社会科学	英語	英語運用の基礎となる知識	聞き手に伝わるよう、句・文における基本的なリズムやイントネーション、音のつながりに配慮して、音読あるいは発話できる。	3	
				明瞭で聞き手に伝わるような発話ができるよう、英語の発音・アクセントの規則を習得して適切に運用できる。	3	
				中学で既習の語彙の定着を図り、高等学校学習指導要領に準じた新出語彙、及び専門教育に必要な英語専門用語を習得して適切な運用ができる。	3	
				中学で既習の文法や文構造に加え、高等学校学習指導要領に準じた文法や文構造を習得して適切に運用できる。	3	

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	100	0	0	0	0	0	100
基礎的能力	100	0	0	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0